

## 練馬区子ども読書活動推進会議(第12期第二回)要録

日時：令和6年2月20日（火） 午前10時から正午まで

場所：光が丘図書館2階視聴覚室

### ●参加者

○委員（敬称略）

林、木村、熊丸、工藤、橋爪、慶野、内田、中村、降籬

○傍聴人 1名

○事務局

山崎光が丘図書館長、松田子供事業統括係長、同係 和田、大塚、吉住  
教育指導課 田口指導主事

### ●議事等

1 開会

2 議題

(1) 提言書案について

(2) 練馬区立図書館利用者アンケートについて(青少年分)

(3) (仮称)読書についてのアンケート

3 その他

4 閉会

#### 【配付資料】

資料1 提言書案

資料2 練馬区立図書館利用者アンケート(青少年分)

資料3 (仮称)読書についてのアンケート

### ●会議要録

○事務局

定刻となりましたので始めさせていただきます。本日はお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

わたくし本日司会を務めます子供事業統括係の吉住と申します。よろしくお願いいたします。  
それでは、資料の確認をお願いします。

## 次第

資料1 提言書案

資料2 練馬区立図書館利用者アンケート(青少年分)

資料3 (仮称)読書についてのアンケート

です。資料の過不足はございませんでしょうか。

また、第四次子ども読書活動推進計画冊子もお手元にありますでしょうか。

それでは、座長、会議の進行をお願いいたします。

## ○座長

本日は、ご多忙の中、お集まりいただきありがとうございます。

ただいまより、第12期 第二回 練馬区子ども読書活動推進会議を開催させていただきます。

本日の欠席委員は坪倉委員、池田委員です。よろしくお願いいたします。傍聴人は1名です。  
早速ですが、次第に沿って議事を進めたいと思います。

まず、事務局より議題(1)「提言書案について」ご説明をお願いします。

## ○事務局

事務局より議題「提言書案について」についてご説明させていただきます。

資料1 提言書をご覧ください。

過去数度にわたって本会議で提言書について、ご意見をいただいたところですが、前回、委員の皆様からご意見をいただいたところを修正したものが、資料1 提言書案です。細かい修正箇所につきましては、資料1をごらんいただくこととして、大きく修正いたしましたところは、4ページ目の 2 誰もが等しく読書に親しむことができる環境の整備 のところの 「また、子どもが図書館内で大きな声を出してトラブルになるのを避けて、図書館利用を控えるケースがあります。声を出しても良い時間やスペースを設けるなどして、すべての子どもが楽しく図書館を利用できるようにする取り組みを充実させる必要があります。」としたところです。ここでは障害者、子どもと分けることなく一つの文章とさせていただきました。

委員の皆様にご内容確認をいただき、さらにご意見があれば、頂戴したく存じます。また、今回をもちまして、本提言書を決定版とし、区へ提出していただくということでよろしいでしょうか。事務局からは以上です。よろしくお願いいたします。

## ○副座長

事務局から説明のあったとおり、障害者、子どもを分けることなく記載いただくということは前進があったと思う。広く大人たちの心に届くような文章になったことを嬉しく思う。

○座長

その他、わかりにくい箇所や修正をしたい箇所はありますか。

○委員

赤字で記載の箇所で、「トラブルになるのを避けて」というのは表現が直接的すぎると感じる。他に良い表現はないだろうか。

○副座長

主語は子どもだが、その保護者についても文言として入った方が良いと思う。楽しく図書館を利用できるようにするには前提として「安心」が入ることになる。「子どもとその保護者が安心して利用できるようにする」ということも加えると良いのではないか。

○事務局

以上をまとめると、「子どもが図書館内で大きな声を出して迷惑になることを保護者が心配して、図書館利用を控えるケースがあります。声を出しても良い時間やスペースを設けるなどして、すべての子どもと保護者が安心して楽しく図書館を利用できるようにする取り組みを充実させる必要があります。」でいかがでしょうか。

○座長

3ページの9行目、「タブレットパソコンを朝の読書活動などに活用できる」旨の記載があるが、私の中でタブレットパソコンと朝の読書活動が結びつかない、朝の読書活動をしている学校がどれだけあるのか、またその頻度や時間についても知りたい。

○事務局

中学校については全ての学校で実施している。小学校は週に1回ほど読書の時間を設けている。区として電子書籍をタブレットに入れていないということはないが、学校によっては自校の予算で電子書籍アプリを入れているところもある。今後区として電子書籍をタブレット上に配備することとなれば、電子で本が読めるようになる。

○事務局

今の件について補足する。電子書籍については来年度図書館システムの更新を区立図書館にて行う。図書館のホームページにも電子書籍を導入予定である。そうなると、タブレットで図書館ホームページを開いて電子書籍を読むということが可能になる。そう言った想定のうちこの文言を入れている。民間の電子図書システムを導入している区もあるが、すべて大手2社のどちらかである。契約形態も様々だが、読み放題パックという契約は複数人が同時に同じ電子書籍を借りることができるので、こういった読書活動にふさわしいと考えている。

○座長

そうなると課題のところに「電子書籍のさらなる導入」といったことも追記した方が良いかと思うが、いかがか。

○副座長

事務局の話聞いて理解できたが、読むだけでは理解が厳しいのではないかと思う。言葉の整理をしていただく方が良いと考える。

○座長

「タブレットパソコンについては、学校現場もそれぞれ試行錯誤しながら利用を進めています」で一度文書を切り、電子書籍の話差し込む流れはどうか。

○事務局

それでは「学校現場もそれぞれ試行錯誤しながら利用を進めています」で一度切って、「タブレットパソコンは電子書籍の導入などにより、読書の方法の多様化につながるさらなる可能性を秘めています」といった形でつなげるのはどうか。→異議なし

○委員

5ページの3子どもの視点に立った読書活動とコミュニティづくりの推進7行目のところで、「子どもの読書活動の推進にあたり、子どもたちの意見が適切に反映されるようお願いいたします」とある。提言書そのものがお願いの文書であることを考えると、ここだけ「お願いいたします」という文末になるのは違和感がある。上の(3)についても同様である。

○座長

他の部分が「ください」という表現なので、トーンを統一するべきか。あえて変えるというのも文章戦略的にはあるが、統一性も大事である。

○事務局

文末が同じだと箇条書きのような印象を受けるため変化をつけている。「ください」に変更した場合、「ください」が連続することとなるが、いかがか。

○副座長

「反映されるよう更なる工夫が必要です」といった表現はどうか。

○事務局

それでは「子どもたちの意見が適切に反映されるよう更なる工夫が必要です」に変更する。

○副座長

5 ページ目の「3 子どもの視点に立った読書活動とコミュニティづくりの推進」の中で「ターゲットごとにふさわしい調査方法」とあるが、「ターゲット」を「対象」などに変えてみてはどうか。

○座長

「対象年齢」ということか。「対象年齢に合わせて」などはどうか。

○副座長

「年齢」に限定するニュアンスでよいのか。例えば「図書館をよく利用する層」と「そうでない層」等にも分けられるのでは。

○委員

「対象」だけだと具体性がないので、「利用頻度」や「年齢」といった項目があってよいと思う。

○副座長

あくまで「ターゲット」という表現がふさわしくないと思うので、それを変えたい。

○座長

「回答していただく方に合わせて」などはどうか。

○委員

やはり「年齢や利用頻度に合わせて」などの方がイメージが湧くのでは。

○事務局

今までのご意見をまとめ、「年齢や利用頻度などに合わせてふさわしい調査方法で実施する必要がある」でいかがか。→異議なし

○副座長

4 ページの「2 誰もが等しく読書に親しむことができる環境の整備」の3行目、「一人ひとりの特性を活かした読書環境の充実に取り組む～」の「特性」というワードが引っかかる。

○座長

「特性」を取って、「一人ひとりに合わせた」でどうか。

○事務局

それでは「一人ひとりに合わせた読書環境の充実に取り組む」に変更する。

○副座長

4 ページの「(1)障害のある子どもの読書活動の推進」の中で、「それぞれの特性に応じたニーズ

が存在します」の「特性」についてはいかがか。

○座長

「個性」に変更するか、「それぞれのニーズ」で意味は通ると思うが、いかがか。

○副座長

昔は「特性＝障害」だったが、現在の診断基準では特性そのものはポジティブでもネガティブでもない、場合によってはそれが生活の障害になりうるというものである。ただ、一般にそれが周知されているかは疑わしい。やわらかい表現ならば、「持ち味」や先程の「個性」などがある。もちろん外してしまっても良いと思う。「特性＝ネガティブなものではない」という意味も含めて発信していければと考える。

○座長

「それぞれのニーズ」でも意味は通じるかと思う。→異議なし、こちらの記載に変更

○副座長

熊丸副座長の話をついて、「特性」が否定的なワードでないと理解した。意見を改めて恐縮だが、変更なしでも良いと思う。→変更なしとする

○座長

続きまして、議題（２）に移ります。「練馬区立図書館利用者アンケートについて」事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料２「練馬区立図書館利用者アンケートについて(青少年分)」につきまして、ご説明いたします。

毎年、練馬区立図書館では、利用者の皆様の満足度や意見・要望をうかがうアンケートを平成18年度から実施しています。令和5年度は令和5年11月3日から11月23日まで（※関町図書館のみ、令和5年11月28日（火）まで）実施いたしました。

資料２は青少年の意見を、子ども読書活動推進計画に取り入れるため、回答者が青少年(19歳以下)197(練馬区民、電子解答含む)をまとめたものです。

この中で青少年の回答で顕著な違いがあったところは、

「問22 図書館に積極的に取り組んでほしいサービスや催し物は何ですか」

という問いに対して、全体の回答では、

上位3件(一般、19歳以下含む)

|               |   |        |
|---------------|---|--------|
| 1位：映画上映やコンサート | … | 約13.5% |
| 2位：本の著者による講演会 | … | 約13.1% |

3位：講演会等、大人向け事業 … 約 13.0%  
でしたが、

上位3件(19歳以下)

1位：飲食スペースを拡大し、くつろげる場を増やす … 約 21.0%

2位：映画上映やコンサート … 約 17.2%

3位：よみきかせやおはなし会などの子ども向けサービス … 約 13.4%

本の著者による講演会（同率）

でした。

青少年の1位は 飲食スペースを拡大し、くつろげる場を増やす でした。これは一般の回答では4位でした。

さらに、「問 23 誰もが図書館の情報を利用するために必要だと思うことは何ですか」については、

上位3件(19歳以下)

1位：電子書籍を閲覧できるようにする …約 30.1%

2位：図書館ホームページやメールマガジンを充実する …約 19.0%

3位：対面朗読や資料の郵送・録音図書の貸出など、障害者サービスを充実する …約 13.8%

上位3件(一般、19歳以下含む)

1位：電子書籍を閲覧できるようにする …約 22.6%

2位：図書館ホームページやメールマガジンを充実する …約 19.6%

3位：大活字本の貸出など、高齢者サービスを充実する …約 12.5%

でした。上位1～2は青少年と一般との違いがありませんが、

一般では高齢者サービスの充実が3位に入っていますが、青少年では障害者サービスの充実が3位になっています。

#### ○座長

事務局より説明がありましたが、議題（2）「練馬区立図書館利用者アンケートについて(青少年分)」について、皆様のご意見等お聞かせいただければと思います。

#### ○副座長

「誰もが図書館の情報を利用するために必要だと思うことは何ですか」の問いに対する19歳以下の回答の3位が、「対面朗読や資料の郵送・録音図書の貸出など、障害者サービスを充実する」であることは驚いた。こういった（若い方が）心の広がりを見せていることが知れたのは、このアンケートの大きな収穫であると思う。

#### ○委員

限られた期間内で青少年が197人も回答してくれたことに感激した。アンケートについてだが、乳幼児を持つ母親等が子どもの分として回答している場合も含まれるのか。

○事務局

無記名での回答かつ LoGo フォームを用いての回答のため、どのような方が回答したかまでは不明だが、そういったことも考えられる。

○委員

仮に、親が子どもの立場で回答したものとするとすれば、「図書館に積極的に取り組んでほしいサービスや催し物」の1位「飲食スペースの拡大」の意味が変わると思う。飲食スペースを青少年が休憩で使うのと、乳幼児の親が使うのとでは大きく異なる。

○座長

全年齢の回答は何人程か。

○事務局

概数ではあるが、配布数は2万程、回収数は5,600程になる。

○座長

全体から見ると、児童・青少年の回答率は低いと感じる。これは図書館の利用率と比例しているのか。青少年の利用率はもっと高いのではないか。

○事務局

文字が書けないなどで、乳幼児はアンケートに答えていないと考える。なので必ずしも児童・青少年の利用率とは一致しないと考える。

○副座長

「飲食スペースの拡大」が1位というのは、青少年が図書館を居場所として捉えているのだと感じる。それは青少年に限らず全ての方に通じる。図書館に来づらいという方に対して、どう対応していくかが重要であると思う。

○委員

アンケートの「問4 図書館を利用する目的について」だが、2位が「その他(勉強)」である。2位については「その他」ではなく、「勉強」という項目を作るべきと思うが、図書館としては勉強目的の利用は難しいということか。

○事務局

図書館としては持ち込み資料による勉強というのはご遠慮いただいている。なのでアンケートでは「勉強」「宿題」といった項目は設けられない。

○副座長

実際は数学の問題集など置いてあるし、勉強をしている子どもを多く見かける。ここが居場所なのだなと感じる。

○副座長

アンケートの間18～20の未回答がすべて177となっているが、これは偶然の一致なのか、まとめて未回答になる箇所なのか。

○事務局

見落とししやすい項目だった可能性も否定できないが、意図してこの数字になったのではない。

○副座長

図書館の催し物や展示に係る項目なので、未回答が多いのは寂しさを感じる。

○事務局

補足だが、「問4 図書館を利用する目的について」は「本やCDを借りる」がほとんどで、「催し物に参加する」の項目は0人になっている。催し物への参加をより促す必要がある。

○座長

続きまして、議題(3)に移ります。「(仮称)読書についてのアンケート」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

「読書についてのアンケート(仮称)」についてにつきまして、ご説明いたします。

資料3『読書についてのアンケート(仮称)』をご覧ください。

さきほど、資料2「練馬区立図書館利用者アンケートについて(青少年分)」についてご説明いたしました。ここで回答している青少年は、ふだん図書館を利用している青少年です。国や都は青少年の不読率について問題にしています。そこで、練馬区の小中学生を対象として、なぜ本を読まないのか、図書館を利用しないのかといった調査をしたいと考えています。練馬区内の全小中学生全件を調査するのではなく、小学校5年生と中学2年生に対して、5校程度調査することを考えています。つきましてはアンケート案を作成いたしましたので、項目とタイトルについて、委員の皆様のご意見を賜りたいと思います。

○座長

委員の皆様よりご意見をいただきたい。小中学生が回答するものなので、皆様是非「小中学生になったつもりで」回答いただきたい。

○委員

このアンケートは書面で行うものか。

○事務局

書面でも行うし、タブレットでの回答もできるよう、フォームを作成予定である。

○委員

対象が5校程度とのことだが、地域が固まってしまうと回答が偏る恐れがある。その点についてはどうか。

○事務局

どの学校については未定なので、地域をばらけさせることもできるし、対象についても小5、中2以外にもできる。

○委員

アンケートは地域差が出ると思うので、ばらけさせる必要があると考える。

○委員

アンケートのフィードバックが無いと、(回答した)子どもたちが「あれは何だったのだ」となるということを第一回の会議で指摘した。アンケートの結果はどのようにして子どもたちに返されるのか。

○事務局

アンケートの結果については、子ども読書活動推進計画に反映させる形を考えている。学校を通じて子どもたちに伝えることになると思うが、最終的には計画に反映させることとなる。

○委員

せっかくアンケートを取るのであれば、フィードバックをしてくれた方が子どもたちも「気づき」があると思う。ぜひフィードバックをするようお願いする。

○事務局

先程のタブレットを使うという方法だと、フィードバックもやりやすいと考える。いただいたご意見を基に前向きに検討していきたい。先行して12月末からやっていた区の大きな計画のものでも子どもたちからの意見徴収を行った。それについても子どもたちに戻していこうということを庁内で検討している。

○委員

タブレットで行うのであれば、5校に絞らず区内全校にてアンケートを実施することも可能なのではないかと。100%回答は不可能だが、より大きなデータが得られると考える。

○座長

全校からのデータ徴収というのは、タブレットだからこそなせるものと考えます。学年については

小5、中2というのはちょうどよいと思う。受験にもかからず、なおかつ読書離れの分岐点となる年齢であると考え。できるだけ多くの子どもたちから意見が取れると良い。

○委員

アンケートの間5で本を月に何冊読むかを聞いているが、一冊がどれほどの厚さのものなのかによって、回答の意味が変わってくると思う。また、問7の図書館の利用頻度も、まとめて大量に借りるのか、都度一冊ずつ借りるのかで、結局総量は変わらないということも考えられる。そう言った点も汲み取れるようにしたい。

○座長

初めにざっくり集めた情報は、その後細かく分けることはできない。「1～2冊」、「3～4冊」と項目分けするのではなく、ダイレクトに「○冊」と回答させる方が良いのでは。同時に、問1の「本を読むことが好きですか」について、どこまでを「本」として捉えてよいか子どもたちが混乱するおそれがある。「本」に対する何らかの説明や具体例があっても良いのではないかと感じる。

○委員

事前送付いただいたアンケートを家族にやらせてみたが、「好き」「嫌い」の二択で中間の場合どう答えてよいのか困る場面があった。(本を)読むには読むが、好きとも嫌いとも言えない場合を選ぶ項目があると良い。

○座長

このアンケートは読書に特化したものということで、一般的に子どもたちが興味、関心のあるものについての集計は取らないということによいか。

○事務局

あくまで読書および学校図書館も含めた図書館の利用についてを問うものである。

○委員

質問に入るかは別だが、今どきの子どもたちは電子書籍で読んでいる子たちが多数なのではないかと考える。図書館の電子書籍の充実化の話もあるが、実際に子どもたちが読みたいものは電子で読むのか、紙で読むのかを聞いてみるのは有効ではないか。

○委員

学校図書館も含めた調査とのことだが、本を借りるのは学校の「図書室」なのか、町の「図書館」なのかについて、わかった方が良いのではないか。学校で借りるのであれば、わざわざ図書館まで足を運ばないケースも多いと考える。

○座長

皆さんの意見を踏まえると、問15～17については「学校図書館」でなく、「学校図書室」にした方が良いか。

○副座長

「図書室」にする方が良いと思うが、公に「学校図書館」という言葉を使っているのではないか。事務局、いかがか。

○事務局

「学校図書館」という用語は「学校図書館法」の中で定められた用語である。法律的には「学校図書館」が正しいが、一般的には「図書室」の場合が多い。

○副座長

「学校図書館」という表現は残しつつ、後ろに「(図書室)」などと入れると入より親切ではないか。

○座長

これは実際に答えた子どもはいるのか。

○事務局

現段階では案なので、それはしていない。今後皆様の意見を反映させて完成させる。

○委員

アンケートに直接関係がないかつ集計が大変になると思うが、「思い出に残っている本のタイトルを教えてください」などの質問があれば、子どもたちも楽しくアンケートに臨めるのでは。フィードバックの段階でもそのタイトルが新たな興味関心につながると考える。

○副座長

漫画は含まない調査ということか。

○事務局

それについても皆様の意見を聞きたい。一般的に他の調査では漫画を含むものが多い。

○座長

個人的には両方聞いてみたい。学習漫画など、漫画にも侮れないコンテンツがある。

○副座長

図書館開放の指導員の立場としては、ドラえもんの学習まんがや、サバイバルシリーズなど、参

考資料にもなりうるものは大人気であると感じる。漫画についても、子どもが理解できるカテゴリ分けをしたうえで聞いてみるのが良いと思う。

○委員

問13のやってみたいボランティアというのは、休みの日のイベントとして聞いているのか。中学2年生は職業体験もあるが。質問の意図を聞きたい。

○事務局

図書館の企画に対して、青少年の意図を反映させるねらいがある。図書館サポーターなどの企画に参加する意思があるかという聞き方でも良いかと思う。

○座長

全体的に選択肢が与えられた設問が多い。最後に自由記述で、「あなたの理想の図書館は？」などといった質問があれば、面白いヒントが得られるのではないか。

○委員

南大泉図書館ではかなりの漫画の蔵書がある。設問に「漫画を何冊読むか」を入れても良いのではないか。

○座長

その場合、「漫画」と「漫画以外」で分けるのか、また漫画でも「学習漫画」などは別物なのかで聞き方もいろいろ考えられる。

○事務局

例えば、問5で本を月に何冊読むかを聞くときに、「そのうち漫画は何冊ですか」という聞き方はできると考える。漫画が何であるかの定義で、学習漫画は漫画と本どちらに含むべきかについてはいかがか。漫画に学習漫画を含む方が回答者は答えやすいが、こちらの意図した回答になるかは疑問である。

○座長

最近の電子図書の漫画は、エピソードごとに分かれているので、冊数でのカウントが難しい。その点はいかがか。

○委員

小4の娘はYouTubeの動画はよく観ている。電子書籍についてはよく分からない。

○事務局

何ページ読んだかという問い方もあるが、普通何ページ読んだかはカウントしていない。やはり、「何冊か」で問うほかないと考える。学習漫画の扱いについてはどうか。

○副座長

小学校の図書室の先生が変わった時のエピソードだが、前任の先生は授業中に漫画を読ませたくないタイプだったため、授業中は手に取れないようにしてほしいと指示があった。新任の方は漫画賛成だったため、その措置は無くなった。学校図書館の漫画は大人が良いと判断したものしか入っていないことが分かっているし、現在は漫画が分かりやすい参考書として定着しつつある側面もある。「漫画（学習漫画含む）」の書き方でもよいのではないか。

○委員

学習漫画については、請求番号が普通の漫画とは異なり、本と同じ場所に設置している。普通の書籍と同じ扱いでよいのではないか。

○座長

本を読むのが好きと答えた方は、あまりこのアンケートの対象になりえないのかもしれないが、「なぜ好きなのか」「本の何が好きなのか」は聞いても良いのでは。

○委員

問3で「嫌い」を選んだ人だけがその理由を聞かれているので、好きな理由を聞くのはありだと思う。アンケートを見た娘も本が好きで、「本を読むと違う時間の流れ方をする、違う場所に行ける」「友達と共有できる」と熱く語っていた。好きな理由を書く場があったら良いと思う。

○座長

続いて、次第3その他に移ります。各委員または事務局から何かございますか。また言い残したこと等ございませんか。

それでは、本日の議題は以上となります。

なお、本日の会議要録については、事務局が取りまとめ次第、各委員にご確認をいただいたうえで、練馬区ホームページ等で公開いたします。この手順でよろしいでしょうか。→異議なし

最後に、事務局から連絡事項をお願いします。

○事務局

本日はありがとうございました。

次回、第二回の会議の会議は令和6年7月を予定しております。改めて日程調整をいたしますので、よろしく願いいたします。

○座長

以上で第12期第二回練馬区子ども読書活動推進会議を終了いたします。ありがとうございました。